

有効で安全な輸血療法をめざして

日本の輸血療法は世界一と言われています。それは医療で必要とされる血液が確保され、安全な輸血療法を実施する輸血システム並びに関係者の知識と技術の向上努力によって支えられてきました。その上で輸血を受ける患者自身が自分はどうな輸血を受けるのか、あるいは受けたのかを認識することで輸血療法に参加する時代になったと言えます。

今年度は当委員会の新しい取組として、昨年度の研修会でのワークショップにおける成果を踏まえ、「輸血療法の実施に関する指針」に基づく輸血前後の感染症検査を各医療機関が行うための検査体制づくりや輸血を受けた患者自らが輸血後検査の重要性を理解し、2～3カ月後に医療機関で確実に感染症検査を受けてもらうための一助として「輸血前後の感染症検査の手順書」及び患者携帯用の「輸血手帳」を作成することとしました。

輸血後検査の実施は（公財）日本医療機能評価機構の病院機能評価事業の平成25年4月以降に適用される訪問審査時の評価項目から具体的に明記されており、医療機関においても十分に対応することが求められているところでもあります。

幸い厚生労働省の血液製剤使用適正化方策調査研究事業の採択を受けることができ、商業デザイナーにデザイン面での協力を得て、作成することができました。

当委員会のこの取組が、各医療機関が輸血前後感染症検査の実施に積極的に取り組んでいただくため契機になることを望んでやみません。

また、研修会では、前述の感染症問題を含め、広く「輸血の副作用」に焦点を当て、医療機関による事例報告のほか、山口大学医学部附属病院の藤井康彦先生から「知っておきたい輸血の副作用と対策」と題して講演をしていただきました。

県外を含む過去最高の217人の参加があり、この問題に対する医療機関の取組の参考になれば幸いです。

本報告書の作成にあたり、調査や執筆に当たっていただいた諸先生方、様々な事務を担ってくださった薬務課と血液センターのスタッフの皆様に御礼を申し上げます。

2016年3月

広島県合同輸血療法委員会

高田 昇（広島文化学園大学教授）

目 次

第Ⅰ部	広島県合同輸血療法委員会（H27.6.27）	1
1	概要	
2	開催結果	
	（前年度活動報告等）平成26年度の活動報告（アンケート調査結果等）	
	～平成27年度事業の検討	
	（意見交換）「輸血前後の感染症検査の手順書」に係る	
	各医療機関の状況報告及び意見交換	
第Ⅱ部	広島県合同輸血療法研修会（H28.2.6）	39
1	概要	
2	開催結果	
	第1部）輸血の副作用の事例報告	
	第2部）「輸血療法に関するアンケート」調査結果報告等	
	「輸血前後の感染症検査の手順書」作成状況等報告	
	第3部）特別講演「知っておきたい輸血の副作用と対策」	
第Ⅲ部	今年度事業と次年度以降の課題	64
1	委員会事業の概要	
	（1）広島県合同輸血療法委員会の開催	
	（2）広島県合同輸血療法研修会の開催	
	（3）県内医療機関における輸血療法の推進に向けた相談応需	
	（4）幹事会の開催	
2	「輸血療法に関するアンケート」調査報告（詳報）	
	【集計資料】 単純集計（「輸血用血液製剤供給量」別集計（N=100））	
	医療機関別回答結果（抜粋）	
3	「輸血前後の感染症検査の手順書」及び「輸血手帳ひろしま」の新規作成	
4	今後の課題	

<参考資料 これまでの取組み>

参考1	平成20年度における「血液製剤使用適正化普及事業」の まとめと展望について	165
参考2	広島県血液製剤使用に係る懇談会開催状況	167
参考3	広島県輸血懇話会の開催状況	168
参考4	広島県合同輸血療法委員会開催状況（H22～）	169

掲載の資料につきましては、広島県HPにも掲載しますので、ご確認ください。

[トップページ](#) > [組織でさがす](#) > [健康福祉局](#) > 薬務課（献血）

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/59/h27goudouyuketukensyuukekka.html>